

各務原市移住・定住推進 PT 会議（第 1 回）議事要旨

1. 第 0 回 PT 会議の議事要旨の確認

資料 1 各務原市移住・定住推進 PT 会議（第 0 回）議事要旨

（田中副市長より）

移住・定住施策の観点とは、「人が出ていかないためにどうするべきか」を具体的に検討する必要がある。発信先はもちろん対外がメイン。まずはそれぞれ自由に意見を出し、自分なりの解像度を高めていく。プロジェクト会議で出た意見を政策に落とし込むのは事務局だが、皆さんにとっても政策形成の過程を知る良い経験となると思う。

2. 事前宿題の意見交換

資料 2 各務原市移住・定住推進 PT 会議（第 1 回）レジュメ

（田中副市長より）

他のメンバーの意見を聞きながら、自分の意見との共通点や相違点を見つけてほしい。その中で、各務原市の強みと弱みをカテゴライズしていく。若い世代が感じる「住みたい理由、そうでない理由」「欲しいもの、無いもの」「違和感」を掘り下げていく。

【メンバーの意見（抜粋）】

（居住環境）

- ・暮らしやすさの良さとして、買い物がしやすい。スーパーやイオンモールなどがあり、外食もしやすいため、食に関しては充実していると思う。
- ・自衛隊があるため、飛行機による騒音は避けられない。子どもが耳をふさいでいるところをよく見かける。仕方がないことではあるが、マイナスのイメージがある。逆に、自衛隊岐阜基地がどう市民に還元されているかというメリットも上手く PR する必要がある。
- ・地域のことを知る機会があるかどうかが大切。知る機会がないと各務原市に来ることがないため、選ばない理由になり得る。観光面では、各務原 IC や航空祭で比較的知名度がある。
- ・粗大ごみの捨てやすさに関してはとても魅力的。
- ・名古屋のベッタタウン同士で比較した場合、各務原市はクリーンで健全すぎるファミリータウンというイメージがあり、単身世帯からすると刺激がないと感じてしまうため、選択肢に各務原市が上がるのが難しいと感じる。

（交通の利便性）

- ・各務原市は家賃が高い。蘇原などの市中央部は名古屋が遠い。名古屋へのアクセスは岐南や西岐阜、穂積が優位。逆に、場所によっては座って名古屋まで行けるというメリットもある。
- ・駅が多い反面、踏切が多いため、朝の通勤時は渋滞が多い
- ・車の有無と鉄道駅との距離の相関で、暮らしやすさが大きく異なる。
- ・各務原市は複数の駅があることが魅力である一方で、駅前に店がなかったり、アクセスが悪かったりなど、上手に活用ができていない。
- ・川島地区は最寄り駅がなく、どこに行くかで最寄り駅が変わる。市の 5 地区のどのエリアを意識するのかによって、施策が変わる。
- ・駅前の商業施設が活性化していないため、そこで生活が完結せず、一度帰宅してからまた車で出かける必要があるため、利便性がある駅を選びがちになってしまう。

（イベント・賑わい）

- ・那加エリアは民間によって様々な試みがされ、非常に盛り上がっていると感じる反面、鵜沼エリアは手付かずであり、遊び・娯楽の面で魅力が足りないと感じる。
- ・名古屋へのアクセスは比較的良好だが、名古屋からのアクセスは動機が弱い。
- ・市内には刺激的なイベント（ライブなど）が少ないため、主に名古屋市に行くことになる。

- ・河川環境楽園は淡水魚水族館として世界最大級であり、ポケモンGOやポケふたなど、観光地として PR できる要素がたくさんある。市内だけではなく、市外に向けてもっとアピールしていきたい。歩いて楽しめるという観点をもっと掘り下げられるのではないかな。

(雇用・就労)

- ・仕事関係においても製造品出荷額等が高く、働く場所も多いと感じる。一方で、大企業の支店が岐阜市に多いため、岐阜市で働き、各務原市に住むという選択肢はあると思う。
- ・各務原市はものづくりのまちであると同時に、イオンを中心とした商業のまちでもある。どちらの観点でも働く場所があるということを伝えやすい。

(子育て・教育)

- ・保育関係が非常に充実している。保育料なども県内で比較して安い水準であり、移住・定住される方はそのあたりも調べるはず。名古屋で働く場合は通勤時間が長くなるので保育園に送ってから出勤というのは難しく、子育て世帯は岐阜市を選ぶ可能性がある。
- ・令和 7 年度にかかみがはら支援学校が完成した。小中高一貫の特別支援学校は政令市以外では各務原市だけ。障がいを抱える子どもたちが増えている中、多様な人材育成を進めているという観点はイメージアップにつながると思う。

【意見交流】

(全般)

- ・「〇〇のまち」という定義づけをすると、そうではない地域も出てくるのでは？
 - ベースとなる市民サービスは共通であり、住んでいる限り、享受されるものは一緒であるため、定義づけは可能。
- ・子どもがいる場合は、移住のハードルがやや高いように思う。一人の方が移住しやすいというのと、男性の移住より女性の移住の方が、結婚したときにそのまま住むルートができるのでは。
 - この目線で考えるのであれば、単身者向けに何を準備してあげられるのかまで掘り下げる必要がある。
- ・次回の宿題として本市の強みと弱みを出すこととなっているが、地区ごとに問題が違いため、一様にとらえられないのではないかな。
 - それぞれペルソナを設定し、その中で多く出たものを共通点としていけば良いと思う。お互いの意見も新たな気づきのきっかけになるはず。

(雇用・就労)

- ・有効求人倍率というのは、求職者目線で見れば働き口が多いということだが、企業側から見れば人手不足ということであり、良し悪し。外部への発信としては「これだけ働く場がある」ということをアピールしていきたい。企業の協力も必要。
- ・観光やイベントはあくまでオプションであり、雇用や就労を促進することが重要。
- ・現在行っている結婚相談所などの事業をパッケージ化したい。男性向け・女性向けの雇用を促進するアプローチを行いながら、子育てや教育のオプションを付けると良いのでは。
- ・高校生、大学生は様々な地域から来ている。学生向けのアピールも行っていきたい。

(子育て・教育)

- ・意見出しの中で、教育面に関する話が少なかったと思う。移住・定住を考えるうえで、教育は大切な要素。児童生徒数を維持できるかどうか、引っ越し先選びでは重要な観点。

(その他)

- ・昔は川島町民に対して河川環境楽園の観覧車の優待があった。空宙博もそういうのがあるのか。
 - 高校生まで無料で入ることができ、大人も 700 円で入場できる。
- ・遠方から各務原市役所に入庁したメンバーのきっかけは、仕事だったのか、それとも各務原市の魅力だったのか。
 - 仕事が先。プライベートを優先したので住む場所は各務原市ではなかったが、通勤時間が短

いのは理想的。

- ・東京から各務原市に移住する場合に、補助金が出る制度がある。その場合は、仕事を持ってくるか、仕事をこちらで見つけることになる。若い世代が働きたいと思えるような仕事があったほうが良い。
 - 例えば、岐阜駅の前にはサテライトビルがある。その事例を参考に、鵜沼駅などに置き、転職することなく全国でも通用する拠点を置くのはどうか。
 - 実はリモートワーク率は下がってきており、出社させる企業が増えてきていると聞いた。
- ・先ほど、高校・大学でのアピールの話もあったが、市で現在行っているおくやみコーナーのように、パッケージ化されたものがあると、選ぶ側からすると楽だと思う。以前はイオンにKOCが存在していた。なぜ無くなったのか。
 - 国からの補助金が無くなったため。現在は企画広報課内にある。

3. その他

- ・各自が調べてきた情報を共有する場所が欲しい。
 - 事務局で、移住・定住推進PTの共有グループを設定する。
- ・メンバー間の意見集約を図るため、個別勉強会を開催する。勤務時間内外問わず、なるべく多く集まれる日時で設定。来られないメンバーは可能なら事前に意見出し。
 - 全員了。会議室の予約等は事務局で対応。

次回プロジェクト会議（第2回）：6月10日10:00～ 於 本庁3F-1会議室